

KA教育3D主催 『第4回情報交換会』開催レポート

ダイジェスト版

現場のさまざまな状況を確認し合い

活発な情報交換の場となる

2月24日(土)、東京都千代田区大手町のKKRホテル東京にてKA教育3D主催の「情報交換会」が行われた。同会は今回で4回目の開催を迎える。

“3D”とは「出来る・大丈夫・大成功」を意味する。生徒一人ひとりに光をあて、生徒の可能性を見出し希望を持たせるこの3Dの意味は、今日の教育現場にあって非常に大事なキーワードといえるだろう。この“3D”をベースにした「3D教育プログラム」を開発した㈱KA教育代表取締役／菊地淳氏はこう語る。「3D教育プログラムはコミュニケーション能力の低下が叫ばれる社会にあって、これからの時代を生きる子ども達一人ひとりが、自己改善し、目標実現を果たしていくための必要な資質としてコミュニケーション能力を養っていくプログラムです」

今回の情報交換会では、同プログラムを導入、実践している学校から教員の代表が集い、それぞれの学校での状況やプログラムの活用方法、課題など多岐にわたり意見交換が行なわれた。

会の中ではパネルディスカッションも行なわれた。パネラーとして現場の教員に加え、KA教育の顧問を務める経済ジャーナリストも交え、様々な角度から学校現場でのプログラムの活用状況や今後の方向性などについてのディスカッションの場となった。



東京都内のKKRホテル東京で開催された第4回情報交換会



パネルディスカッションで意見交換をするパネラー

KA教育3D会長挨拶 順天中学高等学校副教頭 片倉敦先生

研究発表の場を通し3D教育プログラムの改善につなげたい

皆様こんにちは。今日はよくいらっしゃいました。この時期というのは、皆さん非常に忙しい時期で、大学の入試などもあり、進路に関わっている先生方が多い中であって、このようにお集まりいただきありがとうございます。

この時期が年度の一つの区切りということで、いい時期かなと思い毎年、この時期の開催とさせていただいています。

私どもはやはり多くの研究を行い、その研究を通してより改善をしていき、先生方の学校がそれを使って発展していくというのが理想的だと思います。

ぜひ、こういう機会に先生方のほうで研究発表を多くしていただき、その発表に基づいて私たちがまた改善していくという良いスパイラルを持っていくとこれが3D教育プログラムの発展につながっていくと思います。3D教育プログラムの発展ということは、生徒のためになる、生徒がより教育意欲をつけて、総合的な学力をつけていくことにつながっていくことと思います。



教育界も以前は「生きる力」を重要視したり、最近は逆に学習面を重要視したりと、非常に変化の多い状況になってきています。そうした中、それに負けないよう私ども私学が頑張っていって、今回のような研究を今後さらに充分にしていきたいと思います。また、本日は公立の先生方も参加していただいています、私学だけでなく、公立の学校の先生がこの場にいらっしゃることを非常に心強く思っております。今後は私学と公立の先生方が半々に集えるような場になっていけばと考えております。いずれにしても本日の研究発表を通して、益々本会が発展していくことを期待しています。本日は大変にありがとうございました。

実践報告

東京学園高等学校 高野淳一先生

東京学園における3D教育プログラムの実践



続いて、3D教育プログラムの実践報告として、東京学園高等学校の進路指導部長の高野淳一教諭より同校における3D教育プログラムの実践内容について約1時間にわたり詳細に報告が行われた。

冒頭、同校の概要が紹介され、教育プログラム導入前に高野教諭が感じていた生徒側、学校側のそれぞれの問題点が挙げられた。生徒側は基礎学力と学習習慣の不足（能力的側面）、自主性・積極性・目的意識の希薄さ（意欲的側面）で、学校側の問題点はクラス指導・教科指導が教員個人の裁量次第という状況にあり、行事などは学年毎の取り組みで、「学校全体として動くこと、取り組むことがない」ことが学校側の問題点と述べた。そして、KA教育と出会い、菊地氏より「3D教育プログラム」の提案を受け、これは全校的な指導の核になる可能性があると実感し、その後、平成15年度にエゴグラム診断、16年度からグループコミュニケーションの導入へと至った。

続いて各学年2名の代表者を選出してエゴグラム担当者として学年の希望、意向を吸い上げる体制や担当者らによるプログラム作成会議（全学年代表+進路指導部長+KA教育菊地氏）の開催など同校での取り組み方を紹介。また、3D教育プログラムを「何のためにやっているのか」を明確にするため、生徒研修会、保護者講演会、生徒面談、学級懇談、保護者面談の開催なども行っている。

実践報告の後半ではクラス指導事例として、実際に同校で教壇に立っている石森教諭の取り組みを紹介。石森教諭は非常に熱心な教員で、プログラムの実施にも積極的に取り組んでいる。マイ・チャレンジにおける課題提出や時間・期限の遵守の徹底、「ほめる指導」の推進、2年次からの「定期試験前の自己管理」、試験後に成績上位者や目立って伸びた生徒を発表してクラス内で表彰（拍手）するなどの取り組みを紹介した。



取り組みの成果として、クラスでは目標を高めを設定する生徒が増え、クラス平均点も他と比べて10点高く、大学進学を目指す生徒も増えてきているという。

実践報告の最後に高野教諭は大学生の就職力に触れ、就職力の高い学生は「多様性」と「起業家的創造志向」が高いとしている。そして「多様性」とは“自分の意見を言うこと・他人の意見を聞くことが怖くない”というコミュニケーション能力のことであり、今の取り組みが就職の際にも真価を発揮することを示し、さらなる3D教育プログラムの活用の成果を上げていきたいと語った。

パネルディスカッション

「各学校における教育プログラムの活用状況」

【進行】片倉 敦 先生

【パネラー】

京華中学高等学校 進学指導主任 樋口 元 先生

トキワ松学園中学高等学校 学年主任 中山正秀 先生

城西大学附属城西中学・高等学校 学年主任 林田有加子 先生

台東区立御徒町台東中学校学年主任 山川幸伸 先生

KA教育顧問・KIプレス代表取締役 上妻英夫 氏



パネルディスカッションの時間は、KA教育3D会長の片倉氏が進行を務め、5名のパネラーと共に各校での取り組みの状況や教員間の温度差、また、それを解消するための取り組みなど多岐わたり意見交換が行われた。



懇親会



実 践報告、パネルディスカッション終了後、会場を移して懇親会が行われた。参加者のほとんどが司会より促されて挨拶をし、参加者一人ひとりをクローズアップしながら終始、和やかな雰囲気での懇親会となった。途中、KA教育の中村課長が急遽代役として手品を披露し、会場を盛り上げた。

終 了後には参加者で記念撮影を行い、次回をまた盛大に迎えられよう。これからの取り組みを皆で約し合い閉会となる。



出
来
る
・
大
丈
夫
・
大
成
功

KA教育3D研究会
2007. 2.24 KA教育3D第4回情報交換会

株式会社KA教育
〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03-6784-7675